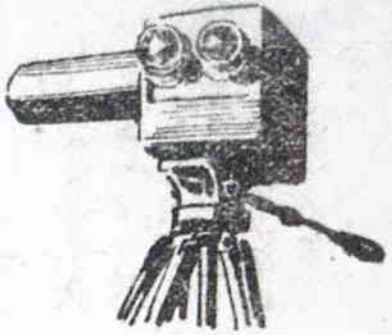
日本のテレビジョン時代はいつ來る？

高柳健次郎



今年は、テレビジョンの實驗時代、日本放送協會は淀山開局、電波は関東および名古屋の開局免許、それぞれテレビジョンを出品実驗公開するので、對とともに急にテレビジョンが脚光となるであろう。

さて日本のテレビジョンは戰前、ある程度までの研究はしていたが、殆どは御承知のような一戰爭關係によつて、すつかり駄目になつた。しかし戰後三年でようやく生氣を取りもどし、最近は各所で實驗と研究實驗が出來るようになつたのは嬉しいことである。

戰後、米英ソ勢の諸外國ではいち早くテレビジョンの研究を再開し、放送を開始したが、その中でもなんといつても米國が一頭地を拔いている。實は米國は終戰後、テレビジョンの放送を再開した。しかし天然色テレビジョンの出現によつてその發展を三年間も延期されて帶域は大いに擴張したが、當分天然色テレビジョンの放送は許可しないことに方針が決定したと、報道部は大統領選擧もあつてテレビジョンのニュース報道が多く取扱われて一挙に擴張されるようになつた。

米國のテレビジョン放送には幾多の驚くべきものがある點、その一つはテレビジョン・カメラの感度が從來に比して一〇〇倍もよいことであり、他の一つはテレビジョン放送が放送されて明るさが一〇倍もあることである。

そこで米國の放送規格は走査線五二五本毎秒數は三〇枚で行われ日本で實驗しているものと同じであるが、米國ではもつと日本のものよりも二度と鮮明に明るく出ていることだろう。

テレビジョン放送が始まつてからは田舍にいて都會生活の樂しみが味えるので米國では現在テレビジョン施設がよくとどく高土地や場所は擴張がよめられ、全米で今や一〇〇万台を超え毎月一〇万台以上の販賣で增加している。施設から所謂テレビジョン局が出來ない。そこで私達はます現在の施設に注意を出して平和な國家の再建をはかり、生活の安定を得るようにせねばならぬ。それには九年から十年もかゝるかも知れない。テレビジョンの實用化はそれからで私達はその時を樂しみに働きつゝ一日も早くするように努力したいものである。

（著者は逓信省電氣通信學校教授・日本ビクター技術部長）

本年一月現在、放送局數は、關東を出しているもの四七、建設中のもの二三で、出願中のもの三二の多數である。テレビジョンの放送波長は三一六米の超短波で、光と同じような直進作用があるので、電波はとどかず一つの放送局のサービス範圍は、放送局を中心とした五〇キロ以内に限られている。そこで遠くへ送るには鐵塔または飛行の中繼を行う必要があるが、現在は米國でも中繼局はニューヨークを中心とした東部と、シカゴを中心とした西部しかなくして、三年の後にはこの網目が全米に張りめぐらされニューヨークの光景がサンフランシスコで見えるようになる。

東京局はKOAKに決まつたが、ラジオの大會社で經營せられ、全米で今や一〇〇万台を超え毎月一〇万台以上の販賣で增加している。施設用受像機の價格は車上渡で受像の可能は一五吋×一〇吋位、價格は三五〇ドル位である。カフェーとか病院などには投写式の設備が設置され、受像可能は二五〇〇ドル位である。低廉用としては車上渡で受像可能は六吋×八吋位、價格は九九・五ドル位である。更に低廉用としては投影スクリーンと同一大に投写出來るものもあり、價格は六〇〇ドル位である。